



第 18 号

編集・発行：城山地区社会福祉協議会（城山地区社協） 会長：伊藤紋三郎（55-1626） 発行日：令和6年9月1日

城山地区概要：9区と16自治会 人口 4,978人 1,922世帯（令和6年8月1日現在）

城山地区社会福祉協議会総会

令和6年4月28日（日）文化会館



会長あいさつ

伊 藤 紋三郎



平成27年6月に城山地区社会福祉協議会が発足して11年目になります。協議会設立の願いは、城山地区を元気にするため、みんなの力を集めて活動し、城山の力を高めて行くことです。

協議会は、5つの委員会が主体的に活動を計画しており、委員会ごとに立案し、役員会に報告し、協力を依頼して、責任をもって事業を実践しています。

おかげで、昨年の各委員会の事業は実施することができ、これにより、住民の方々に認知され、地域の方々のふれあいが深まり、各事業を楽しみに待っていただけるようになりました。

本年も、5つの委員会を中心として、公園学習、小学4年児童による避難所開設体験学習、第9回城山の夏まつり、わくわくチャレンジ親子史跡巡り、城山ひとり暮らし高齢者のつどい、いきいき城山スポレク大会、こども110番の家の支援と確認、安全パトロール、広報「つながり」の発行、などを実践してまいります。

最後に、城山地区社協は、各種活動を通して、城山の皆様のふれあいを大切に、楽しく活気のある城山となるように、努力していきたいと思ひます。皆様方のご支援とご協力をお願いします。



城山地区ひとり暮らし高齢者のつどいの案内

70歳以上のおひとり暮らしの高齢者を対象に、楽しいつどいを計画しました。

日 時 令和6年10月16日(水) 午前11時～午後1時30分

場 所 南濃総合福祉会館ゆとりの森 大会議室

内 容 お食事会・園児との交流・ドリームベルによる演奏

令和6年5月10日（金）城山小学校→だんだん公園

委員長 服部 忠久

城山小学校1・2年生（65人）と体育委員会及び各委員会参加者（25人）が、羽根谷だんだん公園まで、みんなで通学路の一部を歩くことを通して、地域の人々や、安全を守っている人々がいることに気づき、安全な歩き方を知ることと、学校の周りの様子について、実際に目で確かめる学習に参加しました。

内容（午前9時～11時30分）

移動（30分）学校～だんだん公園

交通安全に配慮して、児童と一緒に歩く

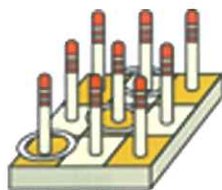


遊び①（30分）だんだん公園

あいさつ・はじめの会

あそびの説明1

なかよし説明1



遊び②（30分）だんだん公園

途中休憩（水分補給・トイレ）

あそびの説明2

なかよし説明2



先生の話・記念撮影（20分）

記念撮影

あいさつ・終わりの会

帰る準備（トイレ・荷物チェック）



移動（30分）だんだん公園～学校

交通安全に配慮して、児童と一緒に歩く

城山地区社協として、初めて小学校とタイアップした取り組みでした。今回の校外学習にあたっては、学校からは、子供たちの交通安全の見守りに加え、公園でのあそびを通じた競技とのことでした。そこで、スポレク大会を開催している体育委員会が主体となりました。

あそびを通じた競技については、玉入れ、輪なげの二種類を行いました。子供たちは、目をキラキラさせながら元気に取り組んでいました。

城小4年児童による避難所開設体験学習

安全委員会



令和6年5月31日(金) 城小体育館

委員長 篠田 重雄

城山小学校4年生35人と、安全委員会委員及び各委員会参加者24人が、大規模災害や地震発生時に避難者を素早く受け入れるための、避難所開設体験学習を海津市地域防災マネージャー児玉 靖講師指導のもと、城小体育館にて実施しました。

まず、避難所とは?

避難所はホテルや旅館ではありません。

災害の危険があり避難した住民等が、災害の危険がなくなるまで必要期間滞在し、または災害によって自宅に戻れなくなった住民等が一時的に滞在することを想定した施設です。



つぎに、何を持って避難しますか?

非常持出袋・・・中身については、事前に何を入れるか書き出し、当日発表していただきました。講師より、皆さんが入れたい物について、帰ったら家族で、かばんの中に入れてみようと言われました。



さらに、避難所運営にあたって

避難所では、皆で助け合い、自分に出来ること、協力出来ることを自主的に行動しようと言われました。



実技指導

ブルーシートを延ばす(縦10m×横10m)4つの角を持って引っ張る。(ブルーシートは、体育館内を土足で使用可能とするために敷くものです。)

パーテーション・ダンボールベット・携帯トイレの取り扱い及び備蓄倉庫内の確認を、8班に分けて実技指導を実施しました。



児童の感想



- ①僕は、避難所へいろんな物を持っていくと、いいと思いました。
- ②僕は、今日のお話を聞いて、家と周りがすべて無くなった時に、集まる避難所にルールがあることがわかりました。
- ③私は、テント、ベッドは、家が壊れたら避難所でこういう風に、住むんだなあとわかりました。
- ④私は、こういう避難所があったら、皆が暮らせて、皆で協力するものだなあと、と思いました。

最後に、講師から今日体験学習したことについて、次の土・日に家族で話し合っていたきたいとのお願いがありました。

第9回 城山の夏まつり

令和6年7月20日(土)
午後6時～9時
地域振興委員会

委員長 岡田 均

地域のつながりが薄れていく中、横のつながりをこれからも大事にするために祭りを続けたいと、地域振興委員会が中心となり第9回城山の夏まつりを開催しました。

実行委員長の開会宣言に続き、伊藤紋三郎会長の「城山の夏まつりを楽しんでください」という挨拶で始まった文化会館南駐車場の会場は、約1,200人の人で埋まり、熱気があふれました。

イベントでは、こまの認定こども園・認定こども園庭田保育園の園児による演技、ジュニア新体操アジア大会優勝の城南中学校2年の寺倉カリナさんによるリボンやフープを使った演技の披露、海津リーベラ音楽隊の演奏、よさこい（兎）の踊り、ヒップホップダンスの踊り、西濃地域のご当地アイドル「Route258」のアイドルショー、踊り”リッチ”かいづの盆踊りで夏まつりを盛り上げていただきました。

飲み物サービスコーナー、そしてキッチンカーも5台入り「焼きそば、かき氷」など、どれも行列ができるほどでした。

ゲームコーナーでは、輪投げ、マグダーツ、ドッチビーなど子供たちが夢中になっていました。

午後6時から始まった城山の夏まつりは、午後9時に副委員長の閉会のことばで予定通り終了しました。会場運営に汗を流して下さった各委員の皆さん、ボランティアで手伝って下さった城南中学校36名の生徒さん、本当にありがとうございました。

